

「カク週替わりコラム ～中学入試の基礎知識を増やします～」 過去配信分

●2024/04/06（土）配信 5月にやっておきたいこと

中学校で開催されている「学校見学会」「オープンスクール」「学校説明会」に参加しましょう！受験を検討していない学校にもどんどん参加してください。ひょんなことから「気になる中学校」「進学してもいい中学校」が見つかります。第1志望校以外で、お子さま・ご家庭にあった中学校に出会うことができれば、中学受験での選択肢が増えます。

●2024/04/20（土）配信 中学入試までの受験スケジュールを知ろう

まだまだ先のことのようですが、来年の1・2月は入試本番を迎えています。入試に向けて、今は何をしておくのがよいのでしょうか？12月には出願校の決定、11月頃には入試説明会に参加、10月頃はプレテスト受験となるため、9月には受験する学校を選んでおく必要があります。つまり、今は受験する学校を選ぶために、学校を知る時なのです。中学校のイベントに参加して、学校に触れてください。素敵な出会いが待っています。

●2024/05/11（土）配信 第一志望校はぶれない

みなさんの第一志望校はどの学校ですか？決まっていますが、実際に学習を進めていく中で、スランプなどで成績が振るわないことがあれば、第一志望校を変更しようと考えてしまうかもしれません。でも、ちょっと待ってください！中学受験では、多くの学校の入試に挑戦することになりますから、第一志望校に挑戦しつつ、次善校を受験することができる場合がほとんどです。最後まで第一志望校を目指してやり抜くことが大切です。

●2024/06/01（土）配信 併願校の種類①（事前受験校・次善校）

受験では「第一志望校」のほか、併願校を受験します。実はこの併願校には複数の種類があるのです。まず「事前受験校」です。「第一志望校」の受験前に受験する学校です。概ね12月～1月上旬に主要都市などで実施される県外の学校が多いです。次に「次善校」です。「次善校」は「進学してもいい学校」です。お子さまが豊かな中高6年間を過ごすことができると思う学校です。どの学校にも甲乙つけがたい良さがありますので、ご家庭の意向に沿った学校をいくつか決めておきたいですね。

●2024/06/15（土）配信 併願校の種類②（チャレンジ校・合格体験校）

前回に引き続き、併願校の種類です。併願校には「事前受験校」「次善校」のほか、中学受験に挑戦した成果として、受験する学校があります。その1つが「チャレンジ校」です。多くの人が憧れる学校です。また、中学受験の成果として合格を勝ち取るための「合格体験校」があります。これらの学校への挑戦は、これからのお子さまの人生に大きな影響を与えるものになります。

●2024/06/29（土）配信 入試・入学制度の用語①（専願・併願・自己推薦）

今回からしばらくは、入試の専門用語についてお話しします。これらの言葉の意味を知っておくだけで、複雑な入試制度の理解に役立つことでしょう！まずは「専願」です。受験し、合格を勝ち得たら、入学を約束するものです。「併願」は、合格しても入学が必須ではありません。ほかに第一志望校があるときに活用します。概ね「専願」は「併願」よりも合格最低点が低めに設定されています。「自己推薦」は、学力だけでなく、それ以外のことで受験者をアピールする入試です。概ね専願扱いになります。第一志望校が自己推薦を行っているのであれば、挑戦しない手はありません。

●2024/07/13（土）入試・入学制度の用語②（ダブル出願）

前回につづき、入試の専門用語のお話です。今回は「ダブル出願」です。入試が同じ日・同じ時間帯に行われる2つの学校に出願しておくことです。中学入試は一定期間行われます。入試日・合格発表日・出願締切日等の関係で、先に受験した学校の合格発表後では出願が間に合わないときに行います。ダブル出願した入試日より前に行われた学校の入試結果によって、受験する学校を選択できるメリットがあります。

●2024/08/03（土）入試・入学制度の用語③（特待生・奨学金制度）

入試の専門用語に「特待生・奨学金制度」があります。学校によってその名称はさまざまですが、概ね入学金や授業料の免除などが行われます。学校としては、学校全体を引っ張ってしてくれる人材を求めており、また最終的には学校の進学実績につながる場合が多いため、制度を設けています。高校になれば就学支援金制度（※地域や家庭の所得によって異なります）によって少ない負担で進学できることもあり、私学の充実した環境に身を置きやすいのですが、中学時は「特待生・奨学金制度」によって、それが可能となります。

●2024/08/17（土）入試・入学制度の用語④（転コース合格・回し合格）

入試・入学制度の用語の最後になります。今回は「転コース合格・回し合格」。中学校によっては2つ以上のコース設定が行われているところがあり、コースごとに入学者を募集しています。この場合、上位コースでの合格を勝ち得なかった場合、もう一方のコースでの判定を行ってくれることがあり、合格を勝ち得る可能性が高くなります。転コース合格・回し合格は受験者が希望することで実行される場合が多いので、出願の際には必ず転コース合格・回し合格を希望しましょう。そうすることで合格を勝ち得る機会が多くなります。

●2024/08/31（土）プレテストってなに？

プレテストもいよいよ10月から本格化します。問題作成は学校、試験監督は学校の先生、試験会場は学校の教室と、入試本番を体感するには、いかなる模試にも勝ります。また、過去のデータをすべて持っている学校が提供する「合格可能性」や「奨学生認定可能性」は一見の価値ありです。第一志望校や次善校だけでなく、合格体験候補校含めて、最大限挑戦してください。メリットしかないですよ。

●2024/09/14（土）募集要項をそろえよう

受験校として想定している中学校の募集要項をそろえましょう。多くの学校では、学校のホームページに掲載されていますので、手軽に入手できます。そのうえで、このサイト内の「入試まであと●●日」にある「白票：受験カレンダー」に書き込んでみましょう。入試全体を俯瞰して見てみれば、さまざまなことに気づくことができますので、併願戦略も立てやすくなります。

●2024/09/28（土）書類の準備（通知表・検定結果など）

出願にあたり、「通知表のコピー」や「(英語などの)検定の合格証明書」などが必要になる場合があります。コピーであればすぐに用意できますが、検定などの主催者が発行した証明書でなければならない場合は、あらかじめ取り寄せておく必要があります。関西で受験者が多い「五ツ木・駿々堂模試」の結果も正式な「試験結果証明書」の提出を求める学校もありますので、募集要項で確認しておくとう安心です。

●2024/10/12（土）インターネット出願

近年、関西の中学受験でインターネット出願が主流となり、自宅で手続きが完了する便利さがあります。しかし、注意点も存在します。一般的な流れとしては、学校のWebサイトから「出願登録」を行い、受験料を納付します。その後、デジタル写真のアップロードを経て、受験票をダウンロード・印刷します。しかし、学校によって手続きが異なる場合があります。例えば、印刷した受験票に写真を貼付し郵送する必要がある学校もあれば、受験票をそのまま持参するだけで良い学校もあります。さらに、英語検定資格の優遇を受ける際には、合格証明書の郵送が求められることもあります。出願前に志望校の募集要項をよく確認し、必要な書類や提出期限をしっかりと把握することが重要です。

●2024/10/26（土）合格発表

合格発表の方法は、学校によって異なります。インターネットで発表する学校が増えてきましたが、書類を郵送で受け取る場合や、学校に取りに行く必要がある場合もあります。また、合格発表には入学手続きがセットです。第一志望であれば判断は簡単ですが、次善校などであればその後のスケジュールによって判断する基準も変わってくるでしょう。地域によって

は間を置かず複数校の発表を受け取り、その結果をかみしめる間もなく次の行動に移る必要もあります。合格発表を受けて、さらに出願手続きを行う場合もありますし、先に入学手続きを済ませた併願出願校に入学辞退手続きを行う場合もあります。学校によって、期日はそれぞれです。「受験カレンダー」に書き起こしてみ、事前に整理してみてください。

#### ●2024/11/09（土）追加合格

「追加合格」はどのようなタイミングで出ると思われますか？公立中高一貫校では、地域が限定されていることと、第一志望としての出願者が多いこと、そして「入学確約書」の運用により、合格発表から数日の間で出ますが、私立中学校では合格発表から数週間たってからでも出ることがあります。理由の一つは、広い地域から出願者がいる中学校の場合、地域ごとの入試のタイミングで入学辞退の出るタイミングが異なることです。01月中旬に集中する関西と02月上旬にピークを迎える首都圏・愛知をまたがることで、タイミングが散らばるのです。もう一つの理由は、人気上位校の動向で人気中位校が影響を受けることです。典型的な例は灘中の追加合格が、東大寺学園中・洛星中・東海中などに影響を与えることです。「『追加合格』で入学してもついていけないから希望しません」とお考えのご家庭もいらっしゃると思いますが、入学時と卒業時の学力に相関は薄いというデータがあります。ご家庭で選び抜いた上位志望校であれば、喜んで進学しましょう。